

「町内のみなさん。おはようございます。日本共産党でございます。お訴えをさせていただきますのは、市議会議員の藤木くにあきでございます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

さて、みなさん。いよいよ、衆議院選挙が目前に迫ってまいりました。国民いじめの、いまの政治を大本から切り替えるため、みなさんのお力で、日本共産党を大きく躍進させていただきますよう、心からお願いいたします。

福田首相が、安倍首相に続いて、何の反省もないまま、またも政権を投げ出しました。しかし、それは、偶然のことでは、決してありません。「自民、公明の政治はもう限界」と巷で言われているように、自民党、公明党の政治が2つの点で進退窮まっているからです。

そのひとつが、「構造改革」の名で、大企業のもうけだけを応援し、庶民の暮らしを痛めつけてきたこと、その結果、貧困と格差が広がり、都市でも、農村でも、明日が見えないという、荒廃した状況をつくりだしてきたことです。

人間らしい労働のルールが壊されている。社会保障費を、毎年2千2百億円も削り続け、後期高齢者差別医療制度を導入する。毒入りの輸入米を食用に転売する。穀物や原油価格を押し上げている、投機マネーを規制せず、国民生活に重大な影響をあたえ続ける。こういつ間違った経済政策を根本から切り替え、軸足を、大企業から家計に移す必要があります。私たち、日本共産党は、そのために、みなさんと力をあわせ、全力をつくしてまいります。

もうひとつが、アメリカいいなりで、憲法を踏みこじり、自衛隊を海外派兵してきたことの行き詰まりです。

福田首相は、アフガン戦争をおこなっているアメリカ軍に、インド洋で給油するため、海上自衛隊の派兵を来年も可能にするよう、法律をなごなんでも延長しようとしてきました。しかし、国民の強い反対を受け、与党に亀裂が入ったことが、政権を投げ出した要因になっています。報復戦争がアフガニスタンの治安をますます悪化させ、多くの市民を犠牲にしています。紛争を戦争で終わらせることは決してできません。インド洋で戦争をやっているアメリカ軍の軍艦に注ぐ油があるのなら、いま原油の高騰で苦しんでいる農業者や、中小業者にこそ、補填をおこなうべきではないでしょうか。

いまこそ、財界・アメリカいいなりの政治から、国民中心の政治へ、政治の中身を切り替えることが、つよく求められています。

さて、みなさん。私たちが、国民生活の充実を訴えると、自民党、公明党はもちろん、民主党までも、「財源がない」と開き直り、消費税の値上げの議論に入ります。しかし、(89年に)消費税が導入されて以来、私たちが、納めた消費税は、百88兆円。同じ期間に、法人税の減税は、百60兆円です。私たちが、納めた、消費税の大部分は、大企業の減税の、穴埋めになっているだけで、福祉や医療に使われているわけでは、決してありません。

資本金10億円以上の大企業は、今、史上空前の大儲けを上げています。ところが、国に払う税金は、減税、減税の連続で、かつての、3割も少なくなっています。

私たち、日本共産党は、大企業や大資産家への適正な課税、軍事費の削減、米軍再編への税金の投入をやめさせ、9兆円の財源を確保します。そして、それを国民の生活に使います。

「町内のみなさん。自民、民主の大連立がとりざたされてきたように、自民党、公明党の悪政に、根っこで同調している民主党に、政治の中身を変える力が本当にあるでしょうか。

くらしの問題でも、平和の問題でも、国民の立場でがんばる、日本共産党を、大きく躍進させていただくことが、政治の中身を変える決め手です。日本共産党に、みなさんのお力をぜひお貸しください。

どうか、みなさんの大きなお力添えで、日本共産党を大きく躍進させていただきますよう、重ねてお願いいたします。お訴えとさせていただきます。どうか、よろしくお願いいたします。